私の視点

「インデックス・ベンチャーズ」メンター
元アップルCEOオフィス・シニアディレクター
ジェームズ・比嘉（James ひが）

シリコンバレーと日本　次の「野茂」はどこにいる

日本と米シリコンバレーの双方にある支柱は、私の人生の橋を支えてくれている。私は沖縄で育ち、18歳のとき米スタンフォード大で学ぶために太平洋を渡った。当時、世界はシリコンバレーの革命を理解し始めたばかりで、コンピューターはサンフランシスコ湾のそばの狭い谷に姿を現し始めたばかりだった。

この地で私は、スティーブ・ジョブズに出会い、マッキントッシュと呼ばれる新たなコンピューターをつくるチームに加わった。当時は、アップルが音楽や携帯電話といった産業そのものを変革する日が来るとは思ってもみなかった。

シリコンバレーは、起業家精神の発祥の地として称賛されている。スティーブ・ジョブズ、ビル・ゲイツ、ジェリー・ヤン、ラリー・ペイジ、セルゲイ・ブリン、マーク・ザッカーバーグは世界が目指す偉大な起業家たちだ。実は、スティーブと私が当時目指した起業家はバレーではなく日本にいた。盛田昭夫、松下幸之助、そして本田宗一郎だ。彼らは第2次大戦の廃虚の中から世界的ブランドを立ち上げた。私たちはよくこう話していた。「いつか、彼らのようになるんだ」と。

その後、我々が成し遂げたことは歴史的だといわれる。しかし、いま私を捉える疑問は「次の盛田や松下はどこにいるのか」「テクノロジー分野の次の日本のメジャーリーガーはどこにいるのか」というものだ。

そしてその問いこそが私がいま、日本とシリコンバレーをつなげる非営利団体「シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム（SVJP）」の設立を手助けする理由だ。日本経済の未来を左右するカギはバレーとのつながりをどう持てるかにある。ITだけでなく小売り、金融、医者、記者らあらゆる職業でバレーの技術はそれぞれの産業を根本的に変革する。人工知能やビッグデータ、クラウド、フィンテックなどの分野で深く自社をそうした技術に融合させることによってのみ日本企業は世界と伍していける。SVJPでそのためのつながりを日本企業にもたらし、日本の大企業から中小企業までを世界的企業に作り替えたい。

私がこう書いている間にもイチローはメジャー3千安打に近づいている。そんなとき私は野茂英雄を思い出す。彼こそが他の日本人選手が通る道を最初に築いた。いま日本の球児たちは学校の土のグラウンドで練習しながら、いつかメジャーでプレーする日を夢見ている。

日本にはもっと「野茂」が必要だ。みなさんはそれぞれの分野のメジャーリーガーになりたいとは思いませんか？　私たちはシリコンバレーであなたを待っています。

◆投稿は手紙かsiten@asahi.comへ。電子メディアにも掲載します。